

泉北教会創立50周年

記念ミサ



5月28日、酒井俊弘補佐司教司式で泉北教会創立50周年記念ミサが行われ、約90人の信徒とともに祈りをささげた。

泉北教会は、アシジの聖フランシスコを守護聖人として1973年初代主任司祭ゲーセンス神父(淳心会)により創立され、87年に現在の地に移転して、開かれた教会として歩み続けている。

福音の説教で酒井司教は思いを込めて次のように話された「朗読聖書の中に、『いろいろ』という言葉が3回出てきました。賜物も、務めも、働きも、私たちはいろいろです。いろいろな私たちはバラバラになってしまう運命なのでしょうか。いいえ。同じく朗読に「一つ」という言葉が5回出てきました。泉北教会は50年前に11人の信徒から始まった教会です。いまでは、こんなに大勢が一つに集まっています。まかれた種は今後へと続いていくのです。その恵みへの感謝をこのミサでささげましょう。」

ミサ後のパーティでは、司教様との身近な触れ合いを皆、とても喜んでいた。

【主催者の感想】

50年前から現在へと続く泉北教会の歴史を顧みるにふさわしいお説教をいただき感謝しています。神さまからいろいろな賜物をいただいた私たちが、その賜物を互いに活かすことができますように。そして泉北教会にまかれた種が、50年を過ぎた今後もお育てしていきますように。

【参加者の感想】

当日の『聖書と典礼』を引用して50周年のお祝いをしてくださったお説教はたいへん感激しました。コロナが過ぎたことで久しぶりに小さなパーティが行えました。皆さんとおしゃべりする機会が本当に良かった。親睦の大切さを実感。

(文 泉北教会 広報担当)

司祭紹介



2020年、新型コロナウイルス感染症が蔓延して、信徒の方々が教会活動で困難になる中、動画配信により信仰を深める機会を与え続けてきた司祭を紹介します。



できるだけ、芸術的にキリスト教のメッセージと歴史を紹介すると同時に、不安を持つ人びとに慰めと希望を伝えるのが目的です。

グイノ・ジェラルド神父(洲本教会)

チャンネル登録者数 689人 730本の動画



▶ QRコードを読み取って視聴できます



【主な動画配信内容】

- ◆毎日曜日の説教
◆毎月 福音宣教のパネル ... カトリック教会の歴史や建物や典礼のために使う道具について
◆毎月 福音宣教の窓 ... 聖書が与える光で日本の国の出来事、活動や季節に基づいての楽しい発見。外窓も、パネルも、洲本の道を歩く人びとはよく見えています、動画はこれを詳しく、楽しく、音楽を含めて説明をします。
◆大阪教区の教会の紹介 ... (時どき)
◆教会の典礼とイベント、日本の伝統、手品、料理のレシピなどなどです



ラジオ

信仰の時間

5月担当: 崔周永神父(八尾教会)

サイダーは私の恩人のような飲み物だ(5月21日放送分より)



サイダーは私の恩人のような飲み物だ。20年前に大腸がんにかかり、大腸を30cmほど切ってもらった外科手術の後、半年間にわたって抗がん剤の治療を受けていた。集中治療室で、一週間入院して、毎日抗がん剤を打ってもらった。黒い、分厚いビニール袋で遮光された抗がん剤が、徐々に血管を通して体に入ってくる。全部で6回、計算すると36瓶の抗がん剤が体内に入っていたわけだ。容量も人一倍で、看護師さんに聞いてみたら、「十分打っていますよ」との返事で、何のための十分ですか、とは聞けなかったが、癌細胞の増殖や転移を防ぐための「十分」だったことは明らか。最初の一週間が終わるまでは体の反応は別になかった。

しかし、1カ月後に2回目の治

療が始まると、体は口から入る一切の物を拒否してきた。入ってきた食べ物を容赦なく吐き出してしまふ。普通の食べ物は、柔らかいスープも、最後はもちろん水も受け付けてくれない。闘病生活は体力勝負のわけだが、食べなかったら、ほぼ毒物に近い抗がん剤を受け入れる体力作りはそもそもできっこない。どうしようと病室を出たら廊下の自販機に気づいた。サイダーを買って飲んだ。凄く美味しかった。体の細胞の隅々に糖分が行き渡っていくのを感じた。全く食べ物を拒否していた体が、白い、透明なサイダーだけ受け入れてくれたのだ。パターンと落ちてくるサイダーを毎日一箱くらい飲んでいたかな。

その後、続いて3回目の治療が終りかけた頃から、髪の毛が抜け

始めた。なるほど。私も例外なくこうなるのだと分かった。そもそも髪の毛が多い方なので、禿げたようにはならなかったが、4分の1ほど抜けていった。当時、実家(韓国)の大邱からソウルの病院まで通いながら集中治療を受けていたので、ボロボロの状態を実家に帰っては寝る、何とか食べる。そして、1カ月後、またバスで独りソウルに向かう。

6回目の最終日を今も覚えている。当時、まだ修道士だったので、そのカトリック系病院で働いていたシスターたちに、たいへんお世話になっていて、シスターが写真を撮ってくれた。白髪が増え、髪の毛は薄くなり、体重が減り、病者なのだとはよく分かる様子で、私はたいへん嬉しく笑っていた。抗がん剤治療が無事に終わったという喜びの笑顔だったのだ。

理論的に、今の私の体は、砂糖と化学物質でできたサイダーを受け付けてくれるはずがない。なぜなら、あらゆる食品添加物にアレルギー反応を起こしているから。

しかし、たまには、むしろ、サイダーが飲みたくなる日がある。

この前の主日、小教区でごミサを終えて、昼食を取らず、雨に濡れながら自転車のペダルを漕ぎ、汗びしょびしょで玉造に着き、自転車に雑巾を掛けてから、食事を済まし、シャワーを浴びた。しかし、まだ休めない。午後5時の韓国語のごミサ司式! ミサ中、疲れを感じながらも、なぜか時々微笑んでしまう。暑かった一日、サイダーが思い出されて、ごミサが終わったらコンビニエンスストアで買い物をして、一杯飲みたくなったのだ。この前の復活祭、小教区では幼児洗礼と初聖体が行われたが、初聖体を受けた子どもたちの父兄たちからいっぱいプレゼントされた。おいしい果物と、何とサイダー1箱をいただいた。



毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
7月担当: ジョヴァンニ・デリア神父
ABC ラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。